

江差町立南が丘小学校



かけはし

【本年度の重点目標】

『学び合い高め合う子どもの育成』

〔笑顔!〕〔習慣!〕〔学び合い!〕

Tel.0139-52-0524 Fax.0139-52-5489

体も頭も心も鍛えよう

校長 白川 清久

運動会、陸上競技大会といずれも天候の心配もなく、無事に終了。昨年は、運動会練習中にマイマイガの幼虫に随分とやられたため、今年はずいぶん早めに対応。上田さんによる草刈り、役場による薬剤散布などをお願いし、被害も最小限に抑えられた。ちなみに僕は総練習の時、児童席付近に現れた毛虫を退治したせいで、1週間ほど首と左腕が痒くて辛かった。

子どもたちにとって、懸命に体を鍛えた5月・6月。本校の七つの重点実践事項の七つ目の「遊び・運動・食をキーワードにした体力向上」のうちの運動をメインに体力を付けた時期であったと思う。

さて、行事も一段落し、校内では漢字コンクールが始まったり、7月3日（金）の公開研究会に向けた授業づくりに熱が入ったりしている。漢字コンクールは、学年別の50問プリントで40問以上正解すると、貼ってある北海道新幹線に自分カード（合格証）を乗せられる仕組みだ。漢字や計算は得意・不得意があって、なかなか覚えられない子にとっては大変だろうと思うのだが、問題プリントはたくさん印刷して置いてあるので、家庭学習の時間も使いながら繰り返し取り組んでほしい。アルファベットや仮名などと違って、漢字を覚えるということは、文字を見れば意味が分かるという素晴らしい言語文化の継承なのだから。繰り返して身に付けさせなければならない基礎学力の一つである。



ある教育関連会社が行っている小中学生の保護者へのアンケートでは、「学校に期待すること」の中の9割超えの定番は、「基礎学力の定着」「学ぶ意欲の向上」「社会性の育成」「道徳や思いやりの心」である。「なるほど、同感。」という保護者の皆さんも多いだろう。これらに加えて最近増えてきているのが、「食や健康について教えること」「将来の進路や職業について考えること」である。

確かに、時代の変化と共に、仕事の内容も変わり、求められる資質・能力も変わってきている。取りあえず学校を出ておけば…という時代ではなくなってきている。だからこそ、小学生のうちから自分の生き方を考えることが大切だ。そして、社会に出たときに困らない基礎学力、困難な課題を乗り越える応用発展的な学力、人との信頼関係をつくる社会性・道徳心を育てる学校のあり方について、今一度保護者の皆さんと考え方を同じくして進みたい。



運動会～全力でがんばりました

6月7日（日）、絶好の運動会日和に恵まれました。子どもたちは、「仲間を信じ、あきらめず全力を出しきろう！」のスローガンの通り、入場行進から、最終種目の紅白リレーまで、自分のもっている力を十分に発揮しました。

低学年…・自分の競技に、最後まで精一杯取り組みました。
・競技中は友達の応援をし、高学年や先生方の言うことを良く聞いて活動しました。

中学年…・自分から行動することで、低学年のお手本となりました。
・周りの人のことを考えながら種目に取り組むことができました。

高学年…・全体を見ながら係活動を行い、運動会をしっかりと支えていました。
・紅白で協力したり、競い合ったりしながらお互いを高め合うことができました。

一大行事である運動会を無事に終えることができました。運動会の成功に向けた取組や経験を通して子どもたちも様々なことを学び、成長してくれたと思います。また、保護者の皆様方の積極的な参加がたくさんあり、大いに盛り上がった運動会となりました。今後も子どもたちが最後まであきらめずに頑張ろうとする姿を保護者、地域の皆様に届けることができるよう、わたしたち教職員一同、努めてまいります。

運動会につきまして、先日保護者アンケートを実施したところ、7割のご家庭よりたくさんのご意見をいただきました。結果につきましては、7月14日（火）のPTA評議員会で説明し、各家庭へも配布いたします。来年度の改善に向けて、今年度のうちに準備を進めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。ご協力ありがとうございました。



「百印百詩」～江差の漢文に挑戦しました



江差町教育委員会の宮原学芸員を講師に招き、5年生が江差の文化を学ぶとともに国語の漢文の学習の一環として、漢詩の勉強を行いました。今から約170年前に、江差町であった出来事からです。

江差で偶然知り合った二人が、1日で100のはんこと100の漢詩を作りあげたのだそうです。

- ・松浦 武四郎（当時29歳）が印（はんこ）
- ・頼 三樹三郎（当時22歳）が詩（漢詩）



日の出から、日の入りまでに100のはんこと100の漢

詩を作ったそうです。冬至であったため、1つ作るのに要する時間はわずか6分ほどでした。その時間の短さに子どもたちも驚いていました。

次に、石碑に書いてある漢詩の解説を言葉の意味を教えもらいながら、グループごとに考えました。はじめは戸惑っていましたが、最後まで仕上げることができました。

これからも江差の歴史や伝統、文化について、子どもたちに伝えていきます。



避難訓練～大地震・大津波に備えて

平成5年、南西沖地震が発生し、奥尻に住んでいる人たちはもちろん、対岸の町にも多くの被害がありました。平成23年には東日本大震災が起きました。そのとき、南が丘小学校（海拔27.5メートル）にも届くほどの津波が発生したといわれています。

6月11日（木）の避難訓練では、

◇非常ベルが鳴る→教室などで待機する→避難指示・地震発生放送を聞く→玄関前に避難する→避難完了報告

放送を聞いて、玄関前に避難が完了するまで、1分42秒。ここまで1次避難とし、今回はここから、2次避難を行いました。

◇1次避難完了→大津波発生報告と避難指示→高台に向かって

移動開始→南が丘ふれあいセンターへ避難→避難完了報告

移動を開始してから、南が丘ふれあいセンターで避難完了の報告を受けるまでにおよそ8分11秒という速さでした。

【避難後の子どもたちから聞かれた言葉です。】

- とにかく高いところへ走って逃げる。
- 「津波てんでんこ」を忘れない。（ばらばらなところにおいても一人一人が高台へ逃げるとどこかで出会うことができる。）
- 家族で逃げる場所を決めておく。

避難訓練は終わりましたが、南西沖地震や東日本大震災のことを教訓に、自分の命は自分で守る気持ちをいつも持ち、いざというときに行動できるようこれからも訓練を続けます。



